

2021年7月16日第74回運輸政策セミナー
物流とDX～デジタル技術で労働力不足を乗り越えられるか～
宿利会長 開会挨拶

皆様こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日も、ご多用の中、大変多くの皆様にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日のセミナーでは、「物流DX」、即ち物流分野のデジタル・トランスフォーメーションについて取り上げます。

日本の物流を取り巻く環境は、近年、物流の多頻度小口化、ボーダレス化、そして労働力不足が加速化し、この環境変化への対応が大きな課題となっています。

なかでも、物流産業の労働力不足については、生産年齢人口の減少に加え、その厳しい労働環境故に、トラック運転手や内航船員を中心に担い手の不足に直面しています。

加えて、今般のコロナ禍の巣ごもり需要により、ネット通信販売の利用が急増しましたが、ポストコロナにおいても、この傾向は継続するものと予想されており、eコマース市場の急拡大は、物流産業の労働需給を更に逼迫させるおそれがあります。

このような事情を背景に、生産性の向上や働き方の改革に向けた様々な対策が講じられていますが、その中で特に注目されているのが、デジタル技術の活用によりこれまでの物流のあり方そのものを変革する「物流DX」です。

「デジタル」は、「グリーン」と並んで、我が国の成長戦略の柱とされており、先月閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2021」、いわゆる骨太の方針においても、また、同じく先月閣議決定された総物流施策大綱においても、「物流DX」が今後取り組むべき最重要の施策の一つとして位置づけられています。

我が国の物流については、複雑で非定常な業務プロセスなどデジタル化が難しい面があり、デジタル化が遅れているとの指摘がありますが、一方で、デジ

タル技術による配送業務の効率化や汎用化などデジタル化の動きが活発化してきており、さらに、全体最適を見据えた取組も始まっています。

そこで本日はまず、東京大学先端科学技術研究センター教授の西成先生から、物流 DX の狙いや取組の動向、今後の方向性について、基調講演をしていただきます。併せて、先生が物流改革を目指して大学に開設された寄付講座において取り組まれている、デジタル技術など新技術を活用できる高度物流人材の育成についてもお話を伺います。

続きまして、物流のデジタル化やデジタル・トランスフォーメーションをリードしている企業の責任者からご講演いただきます。

まず、デジタル技術により新たなビジネスモデルの展開を目指す、いわゆるスタートアップ企業 2 社からお話を伺います。

最初に、株式会社オプティマインド代表取締役社長の松下様から、オプティマインド社が提供する、AI を活用したラストワンマイルの配車・配送ルート of 最適化システムの現状とその効果についてご講演いただきます。

次に、CBcloud 株式会社代表取締役 CEO の松本様から、荷主と運送事業者をつなぐ配送マッチングプラットフォーム、宅配事業者向けの業務効率化システムなど、CBcloud 社による現場目線でのデジタル化の取組について、ご講演いただきます。

その後、e コマースの担い手であるアスクル株式会社の執行役員、CDXO テクノロジスティックス本部長の宮澤様より、データとデジタル技術を活用して全体最適を目指すアスクルの物流 DX の取組について、ご講演いただきます。

ご講演の後、当研究所の山内所長をコーディネーターとして、4 名の登壇者にご参加頂き、皆様方とのディスカッションと質疑応答を行います。

本日のセミナーが、ご参加いただきました多くの皆様方にとりまして真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の冒頭の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます